

第3回 日本免震構造協会賞 - 2002 -

第3回 日本免震構造協会賞は、右に記す諸氏及び作品を表彰することに決定した。

表彰制度の目的

免震構造の技術の進歩及び適正な普及発展に貢献した者並びに建築物を表彰することにより、免震技術の確実な発展と安全で良質な建築物等の整備に貢献していくことが本協会の表彰制度の目的である。

表彰の対象

功労賞は、多年にわたり免震構造の適性な普及発展に功績が顕著な者に、技術賞は、免震建築物の設計、施工及びこれらに係る装置などについて研究開発により優れた成績をあげた者にそれぞれ贈る。作品賞は、免震構造の特質を反映した、優れた建築物とする。

表 彰

2002年6月11日

(社)日本免震構造協会通常総会後

(社)日本免震構造協会表彰委員会委員

武田壽一 (委員長) 和田 章 (副委員長)
石原直次 大越俊男 岡本 伸 辻井 剛

審査経過

今回技術賞、作品賞の枠組みの中でそれぞれ特別賞を設けた。技術賞では研究開発の創造性、技術性に視点を置いているが、表彰制度の目的にある普及発展に努力工夫をした点をも評価して特別賞とすることとした。作品賞では文化財保護の視点をも含めて評価することとし、特別賞とすることとした。

応募の内訳は技術賞3件、作品賞5件で功労賞については応募がなかった。審査の経過を述べると、予め審査書類の内容を各委員が十分吟味し、初回の委員会で自由に意見交換を行い、その結果技術賞候補を3件、作品賞候補を4件とした。

作品賞については、2回に分けて現地で説明を受け、最終審査を行った。なお、技術賞についても、今回は一部現地で説明を受けた。そして、4月上旬委員会で審議を重ね満場一致で最終候補の決定に至った。

一般的に述べると技術賞については、特別賞も含めてそれぞれ新しい考えを打ち出し、研究を重ね創意工夫をこらしている。

作品賞については、建物としての素晴らしさのほか、免震装置を積極的に見せる建物とか、免震建物であ

選 考 結 果

第3回 日本免震構造協会賞受賞は下記の5件である。

I 技術賞

- 1) レトロフィット免震に関する一連の研究
大成建設株式会社 小山 実、鈴木裕美
佐藤啓治、杉崎良一
- 2) (特別賞) 免震住宅の普及化への取り組み
株式会社一条住宅研究所 高橋武宏、吉井邦章
株式会社一条工務店 深堀美英、平野 茂、岡村光裕

II 作品賞

- 1) 興亜火災神戸センター
株式会社竹中工務店 福山國夫、上田博之、池田英美
鍋谷めぐみ、植田光治
- 2) 角川書店新本社ビル
株式会社角川書店 角川歴彦
株式会社大林組 浦 進悟、中村雅友、鶴田信夫
堀 長生
- 3) (特別賞) 沢の鶴資料館
沢の鶴株式会社 西村隆治
株式会社黒田建築設計事務所 岩井英治
株式会社大林組 寺村 彰、藤川喬雄、田中耕太郎
(敬称略)

ることを気付かせない、いわば、非地震国のスタイルをとった建物など、表現はいろいろあると感じさせられた。

免震技術がビルの新築ばかりでなく木造住宅にも及び、さらにレトロフィットにも広く使われていくことは、大変喜ばしいことである。おわりに、免震建物について、地震時の機能性などその優秀さが認められ、種々の優遇措置が取られ、更に普及することを望む。

橋の制作者 片山利弘 先生の作品制作意図とプロフィール

<作品制作の意図> 相対する概念、不安と安定を、特殊な技術的表現手段により美的な、均衡空間に創生させることを目的として制作したものです(片山先生)。

<片山先生のプロフィール> 1928年大阪に生まれる。

1966年、ハーバード大学視覚芸術センターの招きで、アメリカ・ボストンに移住、現在にいたる。

1990年、ハーバード大学教授・視覚芸術センター館長となる。また、最近の作品には次のようなものがある。

大原美術館ホールの石壁と石のレリーフ彫刻、協力：和泉正敏氏(1991)

三井海上本社ビルの壁3m高の窓象、線映と石の彫刻、和泉正敏氏と共作(1994)

JT本社ビルホール壁画などの銅版によるレリーフ(1995)

第7回日本建築美術工芸協会-AACA賞、受賞(1997)